

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	山口県下関市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	下関市文化遺産活用事業地域活性化プラン		
4 実施計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 31 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第2次下関市総合計画（平成26年12月策定）における「第1章第1節 文化・スポーツの振興」及び下関市教育振興基本計画（下関市教育大綱）（平成27年5月策定）における「文化財保護活動の推進」を踏まえ、地域の文化遺産の次世代への継承・発展や文化遺産を活用した地域活性化や交流人口の拡大を図るため、以下の取組を実施する。また、実施計画期間中は、以下の取組を通じて、域内の民俗文化財の保存・継承及び活用のための体制の確立を目指す。</p> <p>なお、現在の取組（御田植祭・浜出祭の用具等整備事業）が終了した平成30年度以降も、市民や観光客向けの普及啓発事業を引き続き実施するとともに、域内にある民俗文化財保存団体等を新たな構成員として実行委員会に加え、継続的に「地域文化遺産活性化事業」に取り組むことで、更なる地域活性化や交流人口の拡大等を図っていく。</p> <p>○下関市総合計画 URL (http://www.city.shimonoseki.lg.jp/www/contents/1427267413173/index.html)</p> <p>○下関市教育振興基本計画 URL (http://www.city.shimonoseki.lg.jp/www/contents/1432793664672/index.html)</p>			
6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。</p> <p>下関市教育委員会教育部文化財保護課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等 また、補助事業は次の団体が実施する。</p> <p>下関市文化遺産活用事業実行委員会（委員長：鳴瀬道生） 構成団体（下関市、住吉神社御田植祭協賛会、浜出祭文化財保存会、浜出祭伝承会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 4,252 千円	平成29年度申請額： 1,206 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>(1) 地域の文化遺産である伝統文化や、伝統行事等の価値の再認識及び次世代への確実な継承。 (2) 地域の文化遺産を見る又は体験することによる裾野の拡大及び地域の人々との交流の促進。 (3) 地域の文化遺産の保存継承に対する市民への啓蒙。 (4) 地域の文化遺産を保持する文化財保護団体そのものの継承意識の向上。 (5) 観光客の増加（下関市観光交流ビジョン2022）</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本事業の実施により地域一体となって保存・活用を図る機運を醸成し、平成30年度以降の歴史文化基本構想の策定を検討中。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	下関市教育委員会教育部文化財保護課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	祭事、パネル展等普及啓発事業への来場者数			関連事業 :	住吉神社の御田植祭及び浜出祭等に使用する用具等の整備及び普及啓発事業(事業①、②、③)	
目標値 1 :	平成 27 年度	50,500 人	⇒	平成 31 年度	58,580 人	
設定根拠 1 :	普及啓発の機会創出を積極的に行うことにより、毎年度4%ずつの増加を設定。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	祭礼行事への参加住民数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	御田植祭奉納舞の従事者数			関連事業 :	住吉神社の御田植祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業(事業①)	
目標値 2 :	平成 27 年度	45 人	⇒	平成 31 年度	45 人	
設定根拠 2 :	本市の勝山地区の年少人口が減少傾向にあることから、現状維持を設定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 3 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	住吉神社御田植祭及び浜出祭に係る報道件数(自主設定目標)			関連事業 :	住吉神社の御田植祭及び浜出祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業(事業①、②)	
目標値 3 :	平成 28 年度	5 件	⇒	平成 31 年度	11 件	
設定根拠 3 :	市内外へのPR効果が期待できるマスコミ報道に取り上げてもらえるよう魅力ある普及啓発活動等を行うことにより、毎年度2件ずつの増加設定。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
件	件	件	件	件	件	
目標区分 4 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 4 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 4 :	御田植祭で使用する藁草履の自給率(藁草履づくりの後継者養成によるもの)			関連事業 :	住吉神社の御田植祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業(事業①)	
目標値 4 :	平成 29 年度	10 %	⇒	平成 31 年度	50 %	
設定根拠 4 :	地域で藁草履づくりの後継者を養成し、5年(平成29~33年度)で自給率100%を目指す。					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
%	%	%	%	%	%	

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①:	住吉神社の御田植祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業	実施団体:	住吉神社御田植祭協賛会		
事業区分:	用具等整備	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 29 年度		
事業概要:	御田植祭に使用する用具を計画的に整備（新調・修理）するとともに、市民や観光客など多くの人が集まる商業施設や公共施設等において御田植祭の写真パネルや用具の展示等を行うことで、文化遺産を活かした地域活性化及び交流人口の拡大を図るもの。				
評価指標区分:	・その他		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	御田植祭の入込客数				
目標値:	平成 27 年度	1,000 人	⇒	平成 31 年度	1,500 人
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人	人	人
事業②:	浜出祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業	実施団体:	浜出祭文化財保存会 浜出祭伝承会		
事業区分:	用具等整備	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 29 年度		
事業概要:	7年に一度行われる浜出祭に使用する用具を計画的に整備（新調・修理）するとともに、浜出祭の写真パネルや用具の展示あるいは講座を行い、後継者不足に直面する過疎・高齢化が進む地域の無形民俗文化財の継承のための教育普及活動を実施するもの。				
評価指標区分:	・その他		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	教育普及活動（企画展、講座等）への参加者数				
目標値:	平成 28 年度	250 名	⇒	平成 31 年度	300 名
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
名	名	名	名	名	名
事業③:	祭に使用する用具等の整備及び普及啓発事業	実施団体:	下関市文化遺産活用事業実行委員会		
事業区分:	用具等整備	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度		
事業概要:	平成30年度から新たに取組を行う民俗文化財保存団体等を新たな構成員として実行委員会に加え、継続的に「地域文化遺産活性化事業」に取り組むことで、更なる地域活性化や交流人口の拡大等を図っていく。				
評価指標区分:	・その他		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	祭の来場者数（仮）				
目標値:	平成 30 年度	名	⇒	平成 31 年度	名
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
名	名	名	名	名	名